



総合学科の創造性 地域の力に

に し め

新志芽通信

No.028

令和8年3月9日
秋田県立西目高等学校

卒業式 【3月1日(日)】

好天に恵まれ、春が感じられるとても暖かなこの日に、3年生93名の卒業式が盛大に行われました。在校生送辞は現生徒会長である蘆田すみれさんが、卒業生答辞は前生徒会長の小沼夢菜さんが行いました。3年生は運動会、新志芽祭、クラス対抗大会の西目高校三大行事を大成功に導いてくれました。また、サッカー部をはじめとする運動部、そして文化部の活動でも1・2年生を積極的に引っ張ってくれました。在校生のみなさんは先輩たちの伝統を受け継いで、よりよい西目高校を作っていきます。



厳しい寒さが和らぎ、柔らかな日差しに春の気配が整い始め、この学び舎を優しい光が包み込む季節となりました。本日この佳き日に、ご来賓として、同窓会長 渡部功様、PTA会長 太田公之様、学校評議員 佐々木茂様、さらには、かつて本校で教鞭を執られました先生方のご臨席を賜り、また、保護者並びにご家族の皆様のご列席のもと、令和七年度卒業証書授与式を盛大に挙行できますことは、誠に喜ばしく、心より感謝を申し上げます。

ただいま卒業証書を授与いたしました九十三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。入学以来のたゆまぬ努力が実を結び、ここにめでたく卒業の榮譽を得た皆さんの門出を、教職員を代表して、お祝い申し上げます。

そして、保護者、ご家族の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。

この三年間、あるいはこれまでの歩みの中で、お子様を支え、励まし続けてこられた皆様のご労苦はいかばかりであったかと拝察いたします。また、本校の教育活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜りましたことに、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんが本日この学び舎を去るにあたり、私から最後のお話を贈ります。

本校の校訓である「自強不息」。この言葉を皆さんはこの三年間、何度耳にし、目にしてきたことでしょうか。

中国の古典『易経』を出典とするこの言葉は、「自ら努め励んで、止むことがない」という意味を持ちます。これは単に「一生懸命勉強しなさい」と言っているわけではありません。

自らを律する強さを持つこと

変化を恐れず、自己更新を続けること

どのような状況下でも、自分を投げ出さないこと

これこそが「自強不息」の本質です。

世の中には、自分の力ではどうにもできない「運命」のようなものがあります。しかし、その「運命」に対してどのような態度で臨むかは、自分自身で決めることができます。

自らを励まし続けることは、時に孤独で苦しい作業かもしれません。しかし、その絶え間ない努力こそが、皆さんの人格という土台を、何物にも代えがたい強固なものへと変えていくのです。

これまでの学校生活には、時間割があり、目標とする試験があり、導いてくれる先生がいました。しかし、一步社会へ出れば、必ずしも皆さんの背中を押し続けてくれる人がいるとは限りません。自分を律し、自分を磨き続けることができるのは自分自身しかいないのです。



「自強」とは、決して肩に力を入れ続けることではありません。それは、「昨日の自分よりも、今日の自分を一步だけ前に進めよう」とする、静かで強い意志の継続を指すのです。

皆さんがこれから歩む道は、決して平坦ではありません。思い通りにいかないこと、自分の才能や能力に限界を感じることに、あるいは理不尽な壁に突き当たることもあるでしょう。

そんな時、人はつい「自分には無理だ」「環境が悪い」と言い訳を探してしまいがちです。

しかし、そんな「心の停滞」を感じた時こそ、この「自強不息」を思い出してください。

現在、私たちが生きる社会は、AIの進化やグローバル化等により、先行きが不透明で、正解のない時代です。今日正しいとされている常識が、数年後には通用しなくなっているかもしれません。このような時代において、最も必要な力は「完成された知識」ではありません。「学び続け、変わり続ける力」です。

「自強不息」の「不息」という言葉には、現状に安住しないという戒めも込められています。進学する人、就職する人、道はそれぞれですが、どうか「これで十分だ」と学びを止めないでください。知的好奇心を失わず、常に新しい自分にアップデートし続ける努力を惜しまないでください。その努力は、すぐには結果として現れないかもしれませんが、しかし、地中深く根を張る竹が、ある日突然目に見えて成長するように、みなさんの内側に蓄積された「自強」の精神は、必ずや大きな花を咲かせる基盤となります。

そして「花」と言えば、今、皆さんの前を彩っている花を見てください。この花は本校の農場で栽培されたサイネリアです。サイネリアは冬から春へと季節が移り変わるこの時期に、色鮮やかに咲き誇り、私たちに春の訪れを告げてくれます。

サイネリアには、いくつかの花言葉があります。中でも、本日の皆さんに贈りたいのが「常に快活」、そして「望みある悩み」という言葉です。

卒業は別れの時であり、同時に未知なる世界への入り口です。不安を抱くのは、皆さんがより高みを目指そうとしている証拠であり、それこそがまさに「望みある悩み」なのです。悩むことを恐れしないでください。その悩みこそが、いつか大きな「喜び」へとつながる種となります。サイネリアが寒い冬を耐え忍び、春に一気に花開くように、皆さんが今抱えている志は、必ずや社会というフィールドで大きな花を咲かせることでしょう。

皆さんはこの三年間で、多くの友を得、喜びや悔しさを分かち合い、かけがえない経験を積んできました。本校で培った「自強不息」の精神があれば、どんな困難も乗り越えていけると確信しています。

皆さんの前には、無限の可能性が広がっています。失敗を恐れず、自分を信じ、たゆまぬ歩みを続けてください。

皆さんの歩む道が光り輝き、そして幸多からんことを心から願ひ式辞といたします。

令和八年三月一日

秋田県立西目高等学校 校長 関谷 洋之



厳しい吹雪に耐えた冬は嘘のように、2月は暖かな日差しが降り注ぎました。ここ西目でも、二月にもかかわらず二十度近い気温を記録する日があり、私たちは戸惑いながらも、例年より一足早くやってきた春の気配を肌で感じてきました。

そして本日、三月一日。冬の名残を溶かすような温かな風が吹き抜ける佳き日に、秋田県立西目高等学校を卒業される三年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

本日は、先輩方にとって新たな未来への旅立ちの日であると同時に、私たちにとっては、優しく導いてくださった先輩方とお別れをする日でもあります。先ほど、拍手に包まれ入場なさった先輩方の姿は、三年間で積み重ねてきた経験と自信に溢れ、とても堂々として見えました。その輝きの裏には、決して楽しいことばかりではなく、人知れぬ不安や葛藤、そして進路に向けた厳しい冬のような日々もあったことでしょう。しかし、そうした苦勞を私たち後輩には微塵も見せず、常に明るく振る舞ってくださる先輩方は、私たちの学校生活における希望そのものでした。

振り返れば、先輩方と過ごした時間は、私たちにとってかけがえのない宝物です。特に、全校生徒が熱狂した「新志芽祭」での先輩方の姿は、今も鮮明に目に焼き付いています。準備の段階から中心となり、限られた時間の中でクラスや部門の垣根を越えて協力し合う姿。思うように進まず疲れが見える場面でも、決して笑顔を絶やさず、仲間を鼓舞し続ける先輩方のリーダーシップには圧倒されました。

創意工夫に満ちたステージ発表や、活気あふれる模擬店。それらを作り上げた先輩方の情熱が、私たち後輩の心にも火を灯してくれました。達成感に満ちた表情で迎えた閉祭式は、私たちにとっても「この学校の一員で良かった」と心から思える、一生に一度の輝きとなりました。また、部活動や系列での学びにおいても、地道な努力を積み重ねる尊さを、先輩方はその背中で静かに、しかし力強く示してくださいました。

かつて農業高校として始まった本校の歴史は、今もこの学び舎の隅々に、力強く根を張る伝統として息づいています。先輩方はこの三年間、一歩ずつ着実に歩みを進め、自分という一粒の粉を、黄金色に輝く立派な稲穂へと成長させてくれました。農業を志す仲間も、それぞれの専門分野で自らの道を切り拓く仲間も、等しくこの学び舎で切磋琢磨し、共に豊かな実りを目指してきたその姿は、私たち後輩にとっての誇りです。

先輩方はいつも、校内を温かな空気で包んでくださいました。私たちが自分の未熟さに悩み、立ち止まりそうになったとき、先輩方の何気ない一言や、さりげない行動が、どれほど私たちの背中を優しく押してくれたことでしょうか。

また、一人ひとりが個性を活かし、互いの違いを認め合いながら、より良いものを作り上げようとする姿からは、自分の考えを信じ、他者を尊重することの大切さを学びました。先輩方が教えてくださったのは、教科書の知識や目に見える成果だけではありません。仲間と支え合いながら困難を乗り越える強さと、人を包み込むような優しさです。その精神は、先輩方がいなくなった後も、私たちの心の中に確かな指針として残り続けます。

先輩方から受け取ったこの熱い思いを胸に、私たち在校生も、西目高校の伝統を大切に守り、さらに発展させていくことを誓います。明日から先輩方のいない校舎は、きっと静かで、どこか心細く感じられるでしょう。しかし、私たちは先輩方から教わった勇気を糧に、次の一步を踏み出します。

これから先輩方が歩まれる道には、新しい出会いとともに、予期せぬ壁も待ち受けているかもしれません。そんなときは、この学び舎で築いた絆と、

自分を信じて突き進んだ日々を思い出してください。激しい気候の変化を乗り越えて春を待つ木々のように、そして実りの時を信じて大地に根を張る稲のように、西目高校で培った経験は、必ずや皆さまの支えとなり、未来を切り拓く力となるはずです。

名残は尽きませんが、先輩方の歩む道の先に、光あふれる未来があることを確信しています。廊下に響いた笑い声、行事で流した汗、仲間と交わした言葉のすべてが、西目高校の歴史となり、私たちの未来へと繋がっていきます。人生の途上でふと立ち止まったとき、ここでの記憶が皆さまの心を温める灯火であり続けることを願って止みません。

先輩方の新たな門出に、心からの感謝と祝福を贈り、送辞といたします。

令和八年三月一日

在校生代表 生徒会会長 蘆田すみれ

暖かい陽の光が降り注ぎ、春の訪れを感じる、華やかな季節となりました。私たち卒業生九三名は、このような日に卒業できることを嬉しく思います。また、式にあたって、ご臨席を賜りました来賓の皆様、そして準備をしてくれた先生方、在校生の皆さんに、心より感謝申し上げます。

私たちは三年前、多くの先輩方と先生方に迎え入れられ、入学することができました。総合学科という少し変わった学科のなかで、どのような力をつけていけるのか、楽しみな気持ちの一方、学校生活への不安もありました。

ですが、その不安もすぐになくなり、今では沢山の思い出があります。その中でも一番の思い出は、新志芽祭です。三年生は模擬店を開くことが定番で、初めての経験だらけでハブニングもありましたが、当日に向けてみんなで準備をする時間はとても楽しかったです。生徒会として企画する側としても、楽しむ側としても大成功だったと思います。それだけでなく、普段の生活も今では思い出の一つです。ちょっとした世間話から始まる授業を毎週楽しみにしていたり、テストに向けて分からない問題を教え合ったりと、挙げているときりがありません。

私は、一年間、生徒会長として学校内だけでなく、学校外の活動にも参加してきました。生徒会執行部をまとめる立場として頭を悩ませることもありましたが、確実には力はついたように感じています。今まで頑張ってきたのは、三年生の仲間たちだけでなく、一、二年生の後輩たち、そして顧問の先生のおかげでもあります。一、二年生の皆さんは元気があって気遣いができる人ばかりです。四月から新しい仲間と一緒に頑張ってください。遠くからですが応援しています。そして先生方、時にはフレンドリーに、時には大人として私たちに向き合ってくれました。本当にありがとうございました。

生徒会長に就任してすぐの頃、「気張りすぎないで、あなたらしく頑張らなさい。」と言ってくれた先生がいました。他にも、アドバイスをくれた先生や、「頑張ってたね。」と声をかけてくれた先生もいました。私たち生徒一人一人に向き合ってくれる先生がいてくれたからこそ、楽しく学校生活を過ごすことができました。日頃から私たちを見守ってくれてありがとうございました。

最後に、三年間、この学校の仲間であれたことを誇りに思い、そして、西目高校の、これからの、ますますの、ご発展を祈念し、答辞といたします。

令和八年三月一日

卒業生代表 小沼夢菜

